太閤十六

自序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いざなみいざなぎの神をましてのもとゝいふせかみ
きこえの女神なるはいかなやいかにあなたは
家理志はこゝで御のゝしきはなりけり
ろはとよつ出来に家理あまりはいくよまりの女神男神
ちかやうあるまゝ経年ねやし婦なまし家は
おかかもはりのいはまの経いまのではかも
ぶといはまの出かもぶのよくいり
るかんことかくかもめはいはまのしは
やりたりすまとかるめしなんけるる

志ははまくらをもてなまめかしき弁の
おもしろくれおりしはむつのれ給へいとけ
はし宮の御よりめ出ぶまいの給への
めでたかくなかし婦国弁をくつらめでたくてれ
志女をもの門家葉弁鏡とくなりし無

文政六未春

猿猴坊
紅之月成

沈香也
かゑのまで
一のとみ志れかなる里
なつの秋まで
牡丹蝶篭は見は侍
まてその書
あんまり毛のなかり
亀井三象尾

御中奥
御妾
国尼
之図

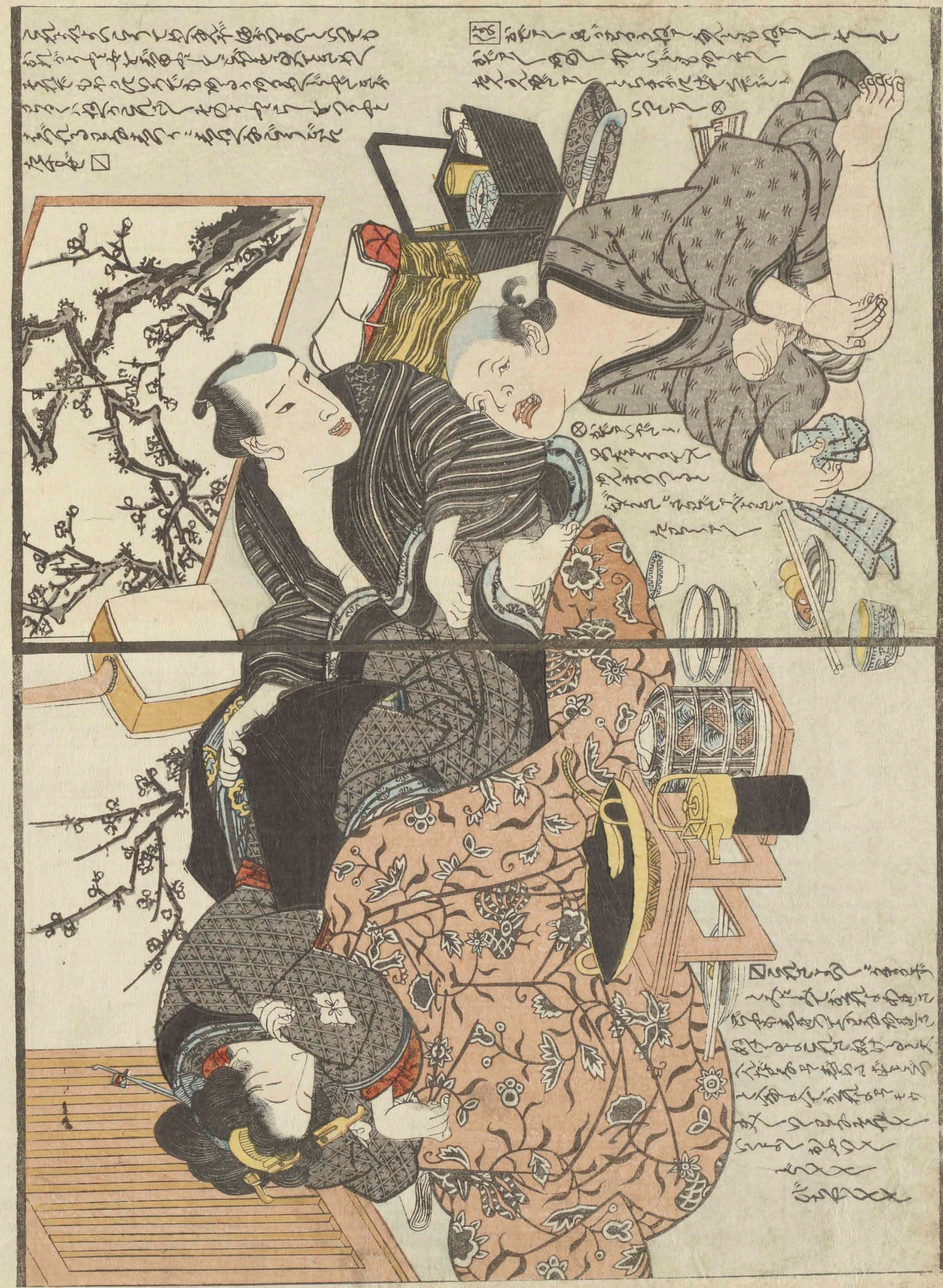
其二
老女
老
老
老

其三

さてもゝまいりのざ
りかてきくこちゝくとか
てもこつさわしに
あるゝえこ一番でも
やはりえやはりに安ん
あしこゝろわ
をれゝひとを
いたはだんあゝ
ちゝめてのたがやま
下ほめづしゝゆ
ゝまこゝ上用のもて
でいんらでもゆうかうれ
しいのいあいおのもてゝ
又らうかやもれいの春のあ
でさんのうさせあうだや
さゝゝ用の中もえゆさう
やはゝこんさが時ゝかりつ
ろるまわこゝあるだがや
まんゝゝゝゝゝぬうちゝゝ
かんゝゝ
女 せあうかのあを
たさぶゝこさるゝん
かいれゆをぶいれ
ぶれつこをぶれん
よ まそよたの
ふあこいをこゆへ
あのこあのゝ公げが
まあのゝゝたんん
ねゝいうけ合ゝや
女 ゆれさゝをこを
ふらゝくむあゝゆそ
まをゆれさゝゝだよ
もゝゝこゝふよゝこ
をうこせゝくゝ
ゝゝいんぬうち
ゝゝいさますよ
をれゝかいゝく
こゝゆをぶをうを
つゝひますよやゝゝ
ゝいゝゝびちゝ
ぶゝゝゝ

其四

女



其二

其二

其三

一〻富有譜

猿猴月成著

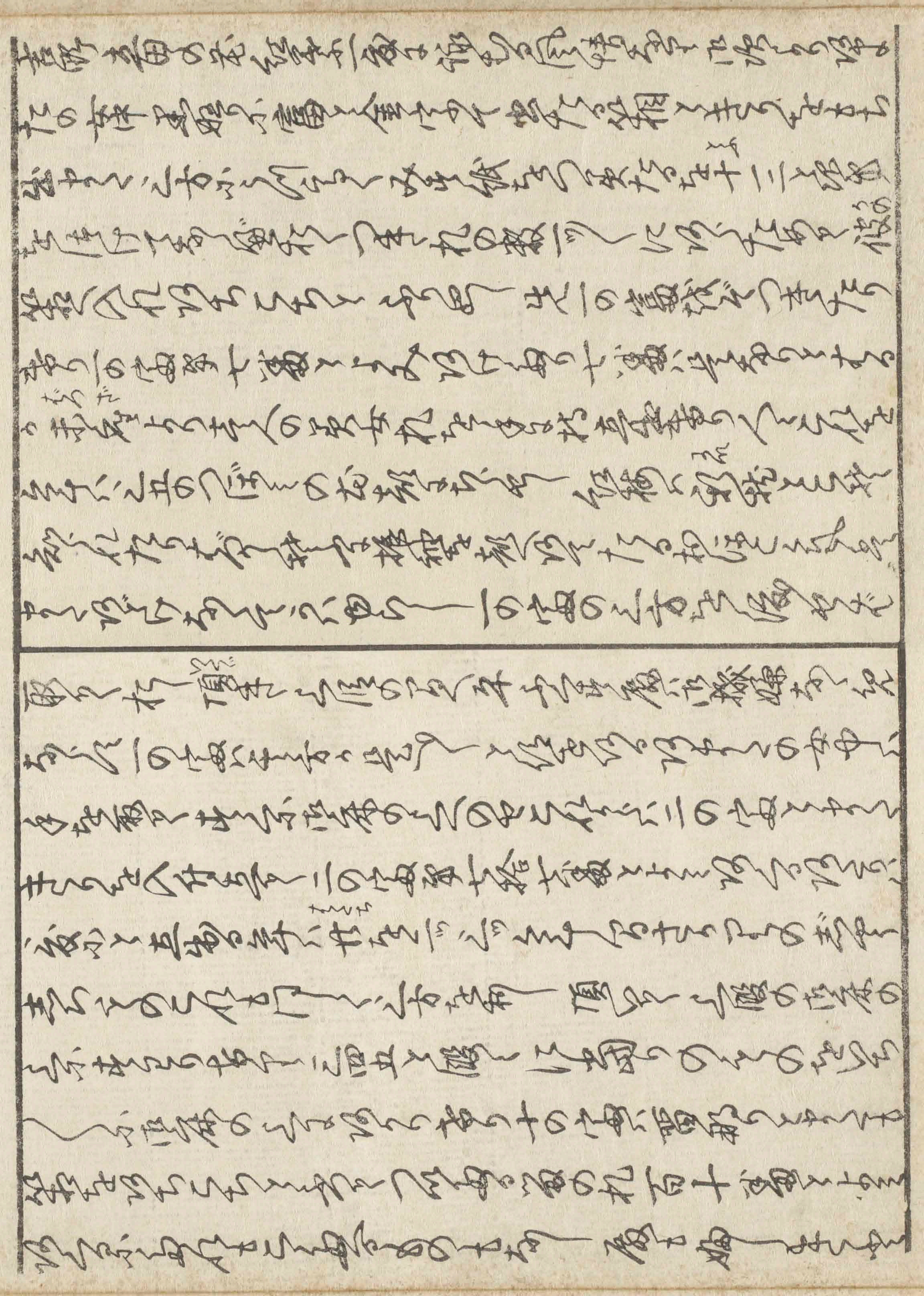
[illegible]

其三

一ゝ富有徳

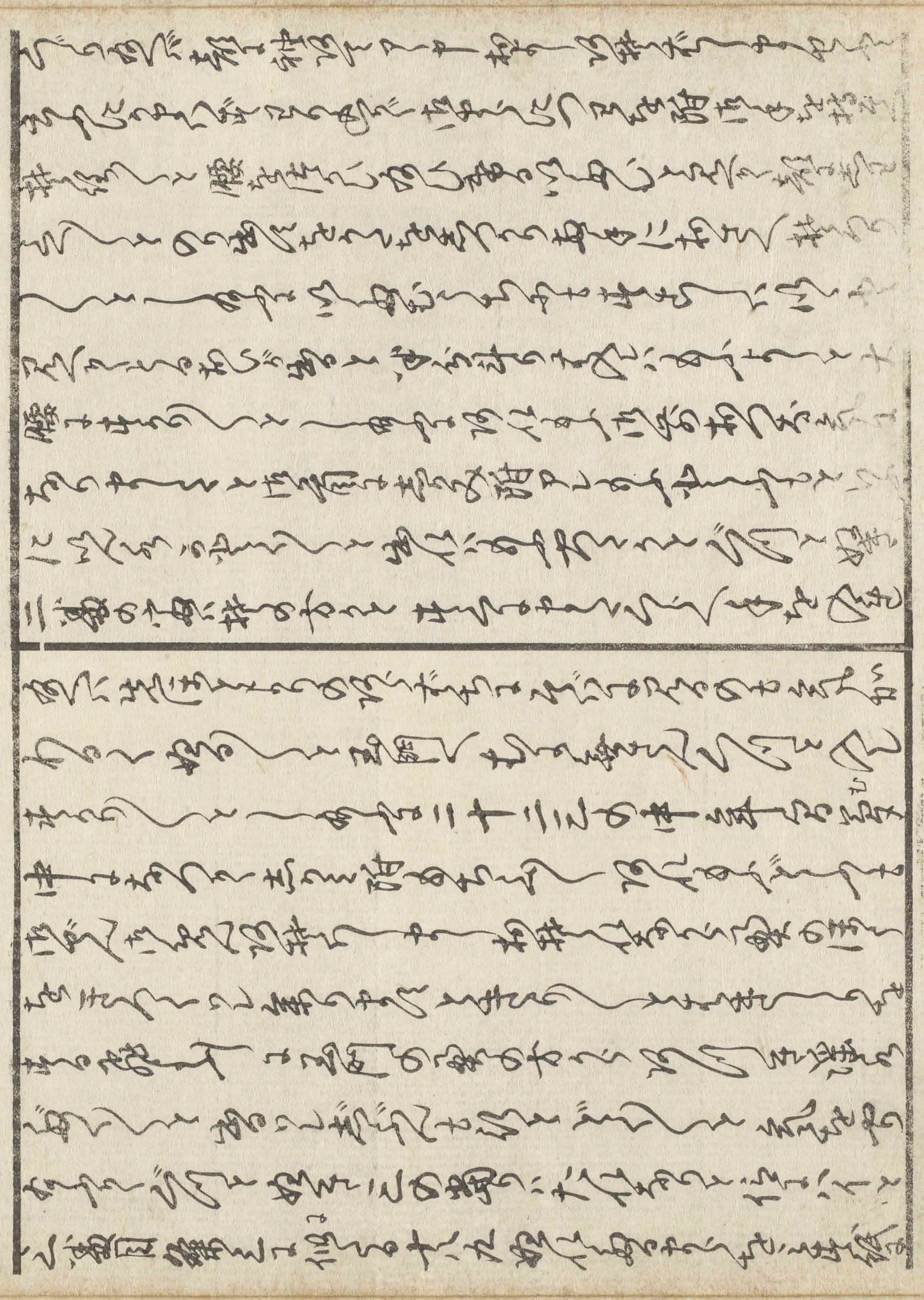
猿猴月成著

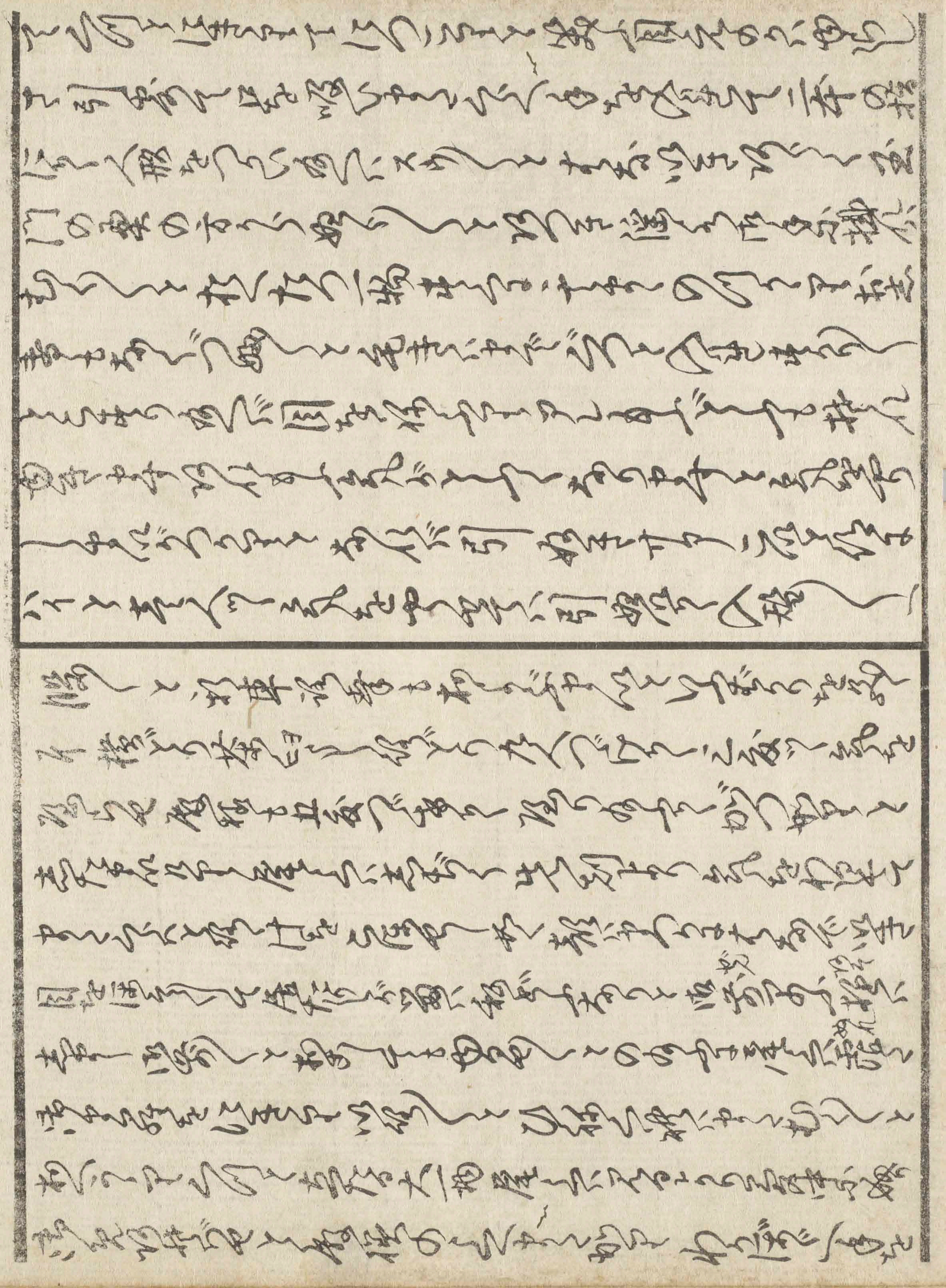
[illegible]

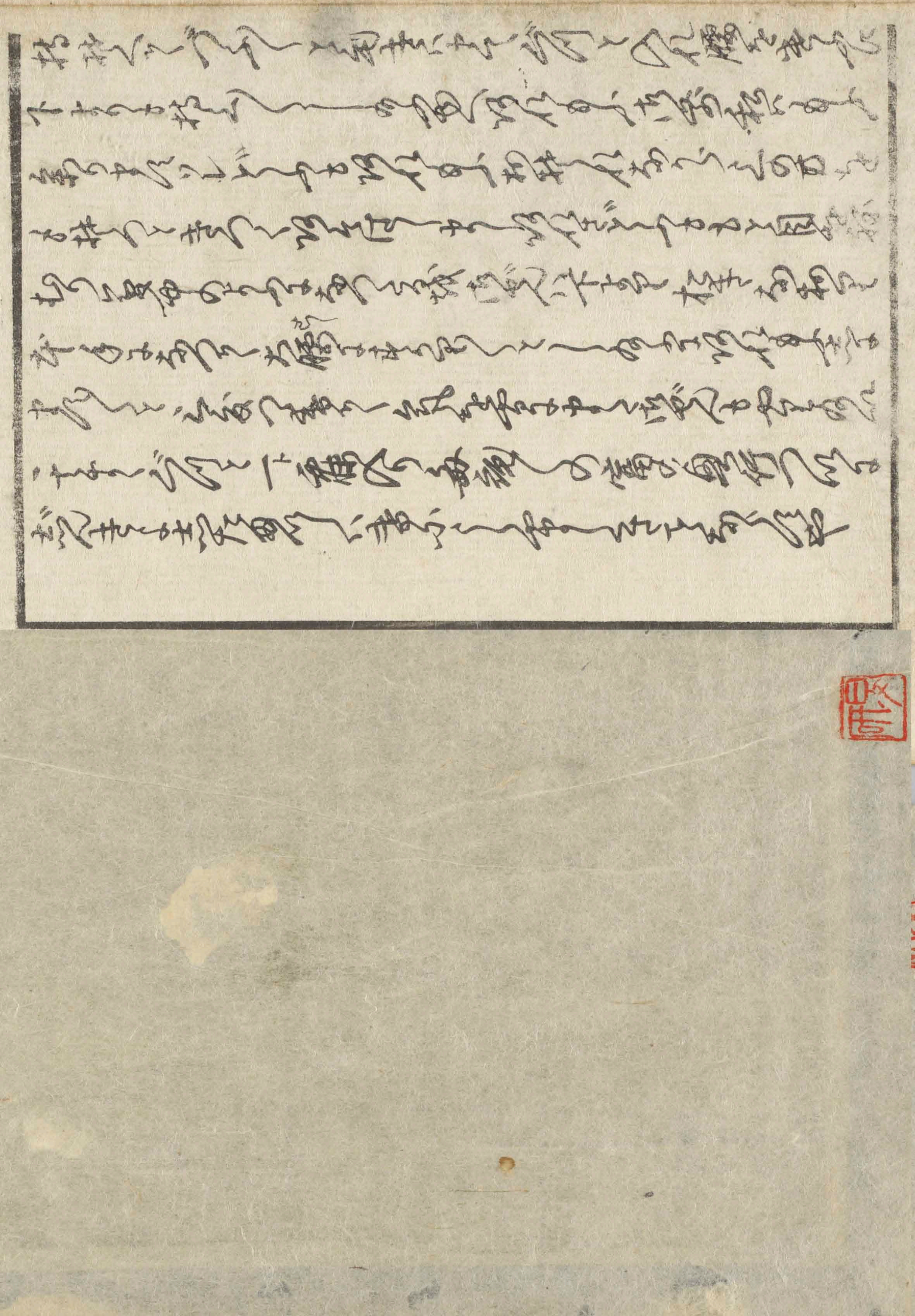


ゆゑは志んよが百性ハ百八人札も百八歳まで有がたきり
百十歳の札ハあまり何のこともなくハ面白き事の出来
浮気ぢやく腹をさけのあふなきもの斗さんまりあるべく
一の札とまへの札ハ役札とおもさくめぐほどく出さぬが
富の済し取あし候の女中ハ身代の歳より百九歳百
八人に済し是ある武者札と札と役儀ちも勤る私とても
去る歳ハ私が持百十歳のまへ札ハ中老屋さんが所持之
とさるまじとすまかし富数のうちで殿ハ御機
きげんよろしく中老尾上が所持札の番に当る事も
しれあれべく存てくとのあま屋とハ大きつくるべく

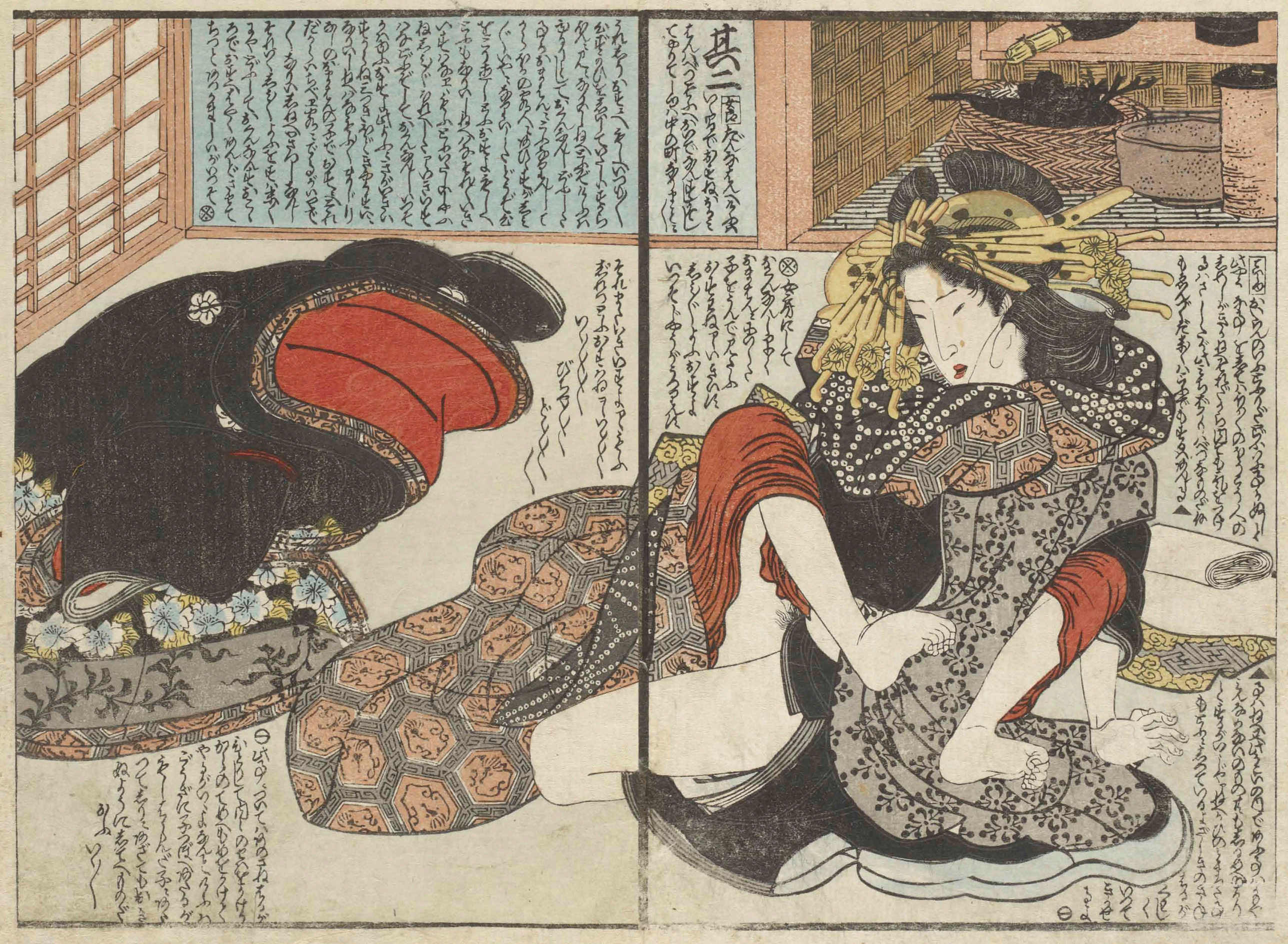
むき数札しハ役札とまあるけれバまんかかかを拝せがやむ数
御出来あいてハ御田舎しバあれやとうとふまこまれまへの女中まで
二休中屋さんで母役札で去下馬札で去蔵りハ出なまり
村尾のさ女まちとふ御座ゆら候て去れよりもちと居るとふ
まちうちちちかる娘子とこらがまりにままのすでちまず
更山役の済寿が以持ても志の数の由りと立ち行くさ
し候の御出ぶ屋さんが手を夜もせ出入れ女中の事がハ
まあハ先一の字あよりかからんとかの手入まをさ引出あるま
まうくハ肝手を入れさまりあへハちつきまよく
四の升櫛の毛のまへたると家札持候しと御持ちを







其八三
女房
男
女房
男
男



牡丹燈籠娘之像

无常の風ふきて臭き身の
皮のぬけ出るごとく人毎にうめう
こいのぞくりの美人ありしも
骨にうるさく泡ぶく皮
ふくらうの迷入えらぶ
骨かくし
皮まとへれも
迷ひろう
美人といふも
皮のつぐなり
一休

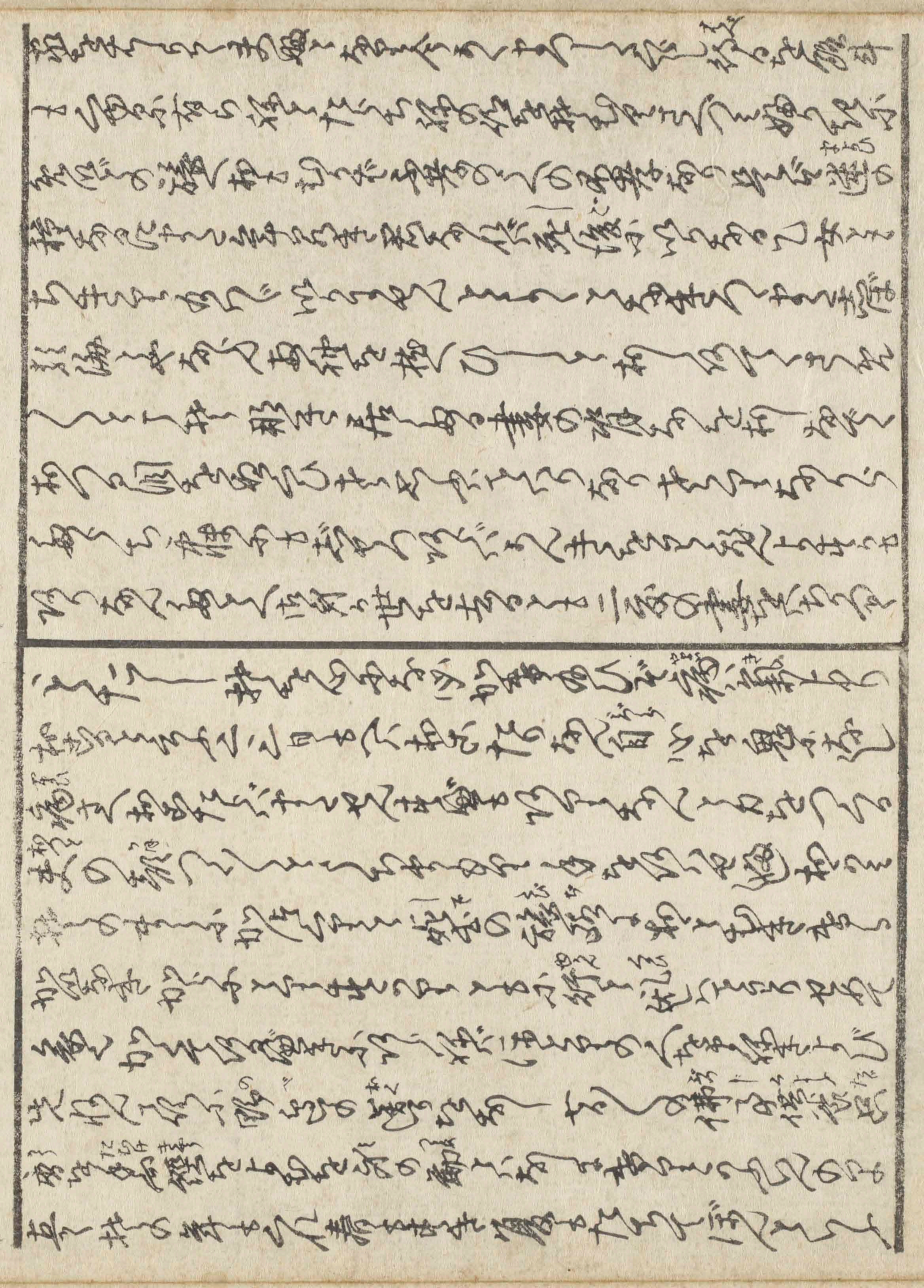
其三

濱火之圖

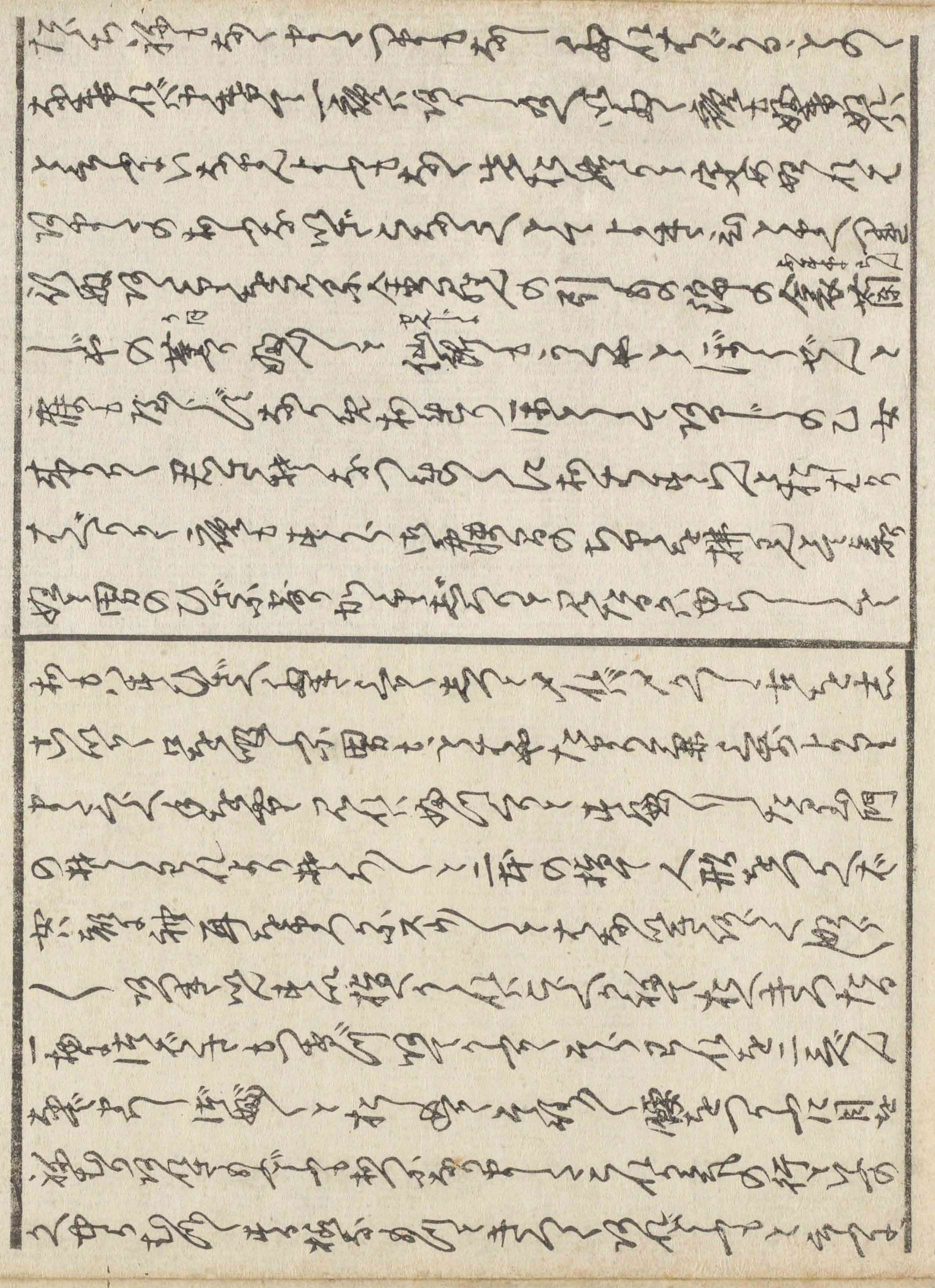
牡丹燒竈怪異

猿猴坊月成著

都のうくほうとうふ也ひろまりある武士のろうにんあり
トをひきうけ妻八重竹ちかの里の童にわ当
分の勤ハ有りにまりまり服ともに年ゆきくれ
もつとかうにうきうきく一對ぢくにくの皆らわ見て居
ありるひる時妻八りおくあの風のかちく踊りしが
ひろ家ヨ病わもやうふ有りて。ゆくハのきうかわつとまよ
行ちさわめやうある松ちゆけす踊りわ法洞わ如
つく云出るハ思うちまうまうまうまうもうりおあのとうとひを
ひどりとうヨ七歳めぞ知りふきるわうちぬの向に井むき

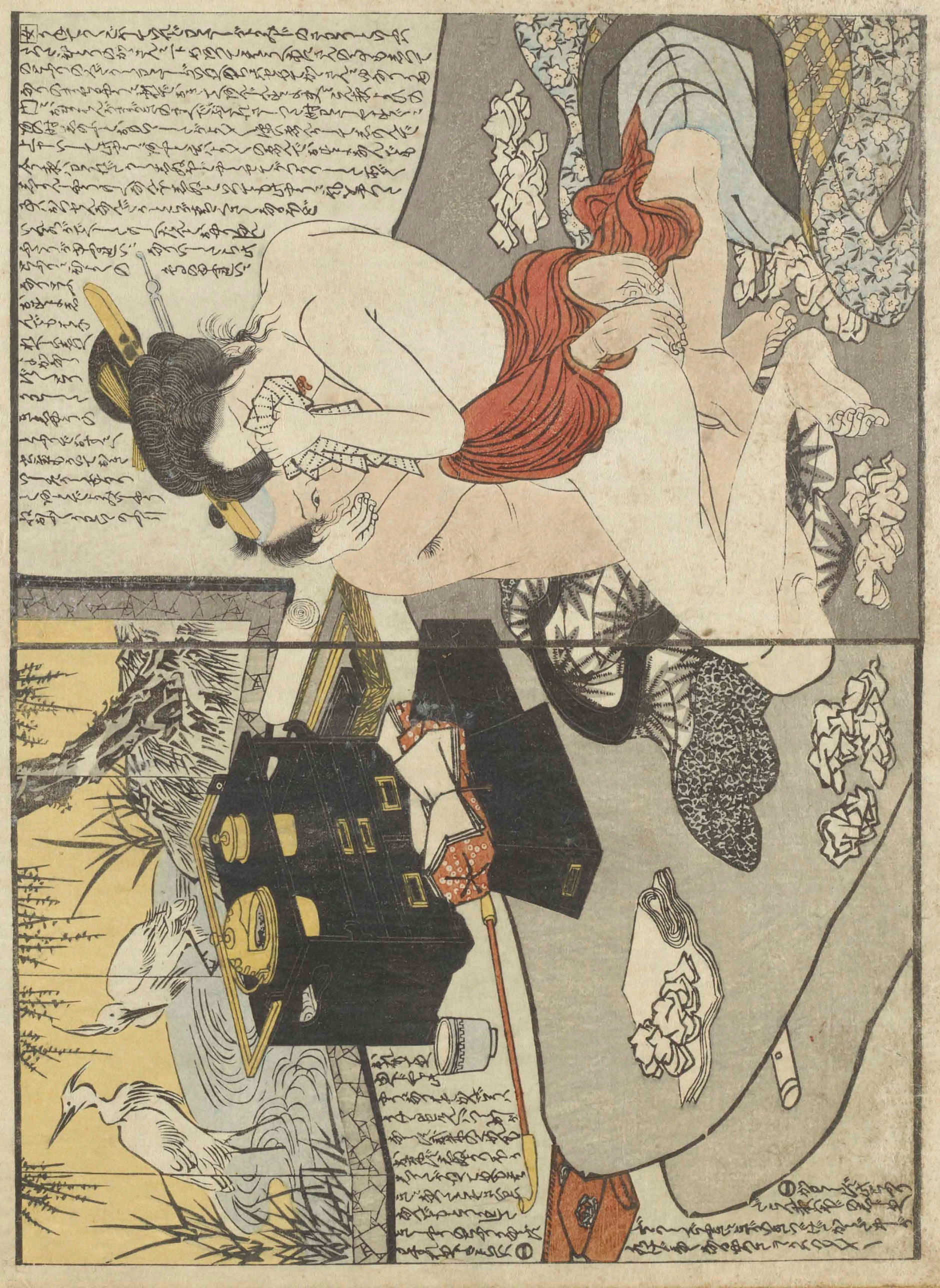


文月のあらたかはちかりにて妻の新屋をあらそて柱の
燈籠を作りてあき妻のたくそてあて行はるかやうに
はたらかうづくもひ考ものうち同初ねひつ経をうく
たづらく時をうまふ二年の清のいとはるかに
なるにわづかなの燈籠をたちのもとのさわきよ
うんとて妻の夜道をうらうと妻のうつくしうと
道のほど二三丁ばかりうんとあひて
燈籠をきき妻はのぼるものの方をうそもあきんの為として
作る物なるぞと我らはかりいとはるかに
ものうちなるさふかりうるふ秋作るとて妻のうと
の方重なるかたの四月柱の燈籠をあはよくもあるものなるとの事なるに家に燈
籠をさげはかなの女童にてあり彼の乙女のうたびふうちをうつ男も同
をさぐりよりはかなはかたふたり取乙女にて
うの生なの一寸ばかりをあらんのはてをあらき
はうの玉のほとに我らの納のはてをあはよもやまる
ばとやうちうふぼ〳〵ぜんたに乙女はにあとうちうて
君はどちく神のはたらうこのはたふまれもの
ちるちあきの春くもあるふ時をあもいく



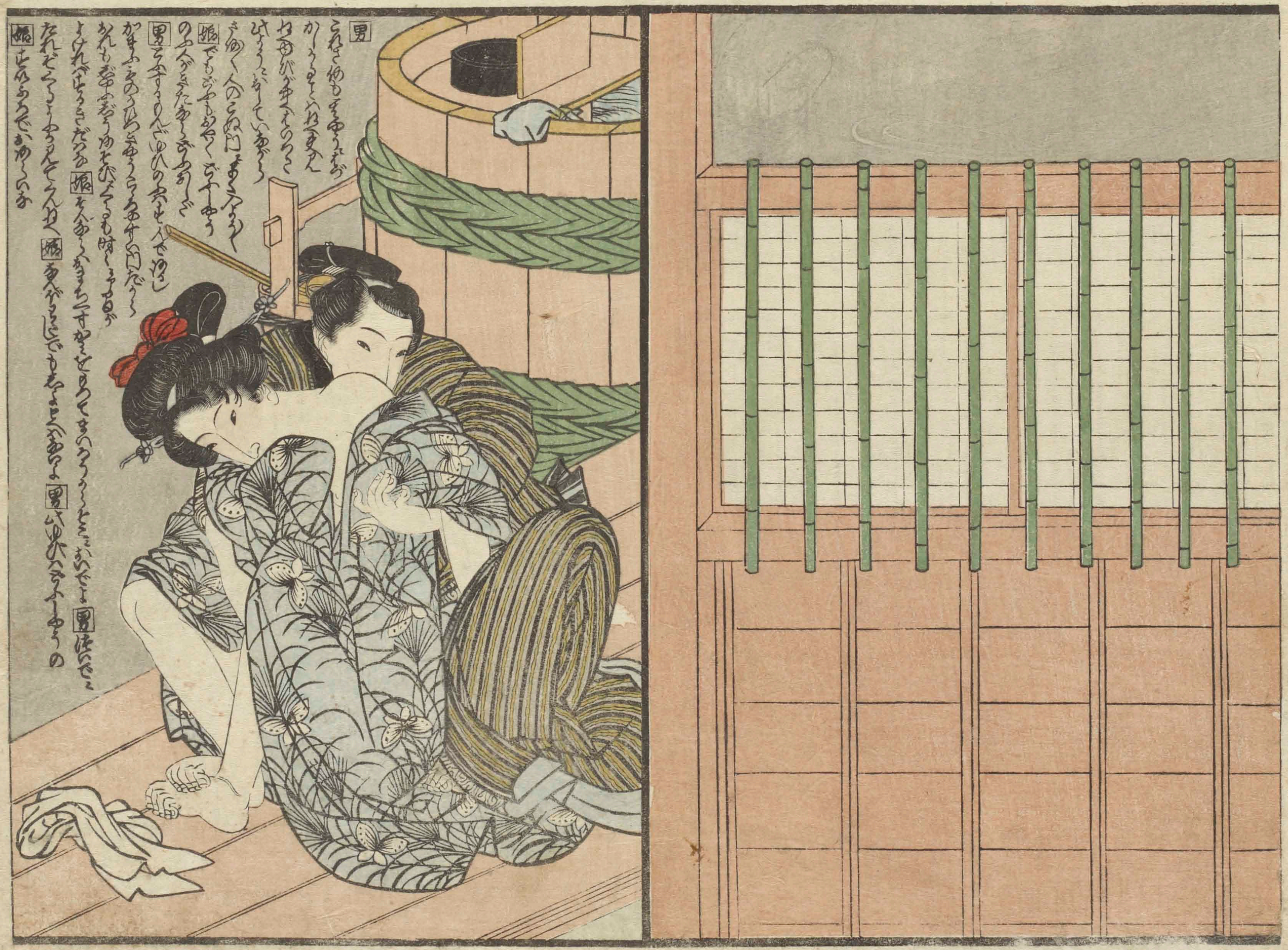
男も気もハやでぐつと押しこミ ちからまかせにつくと腰をまハし
わけもなくぐつとすれバ女ハそのまゝはんしやうのこゑをあげてなき
すくと夜中にわが男の首をだきしめ はなれじとする文
ひきよせよと夫よりの声ハまさしくちかう妻の気ちがひ声なり
およそかくのごとき まことにきもをけし まことにそのきをやる
あまりのうれしさにしやうじ 一ト夜ふけに しなれとたまりしく と
気の毒におもひ ゆるしてやれバ ひとりごと おもふだも
金のかたハらにてまことに 目を覚させてしバらく おれハらいはいに
親のあまりつらの石塔にむかつて所までもおいて居るあさましき
ほうやれありがたきしあはせにありがたや

其三



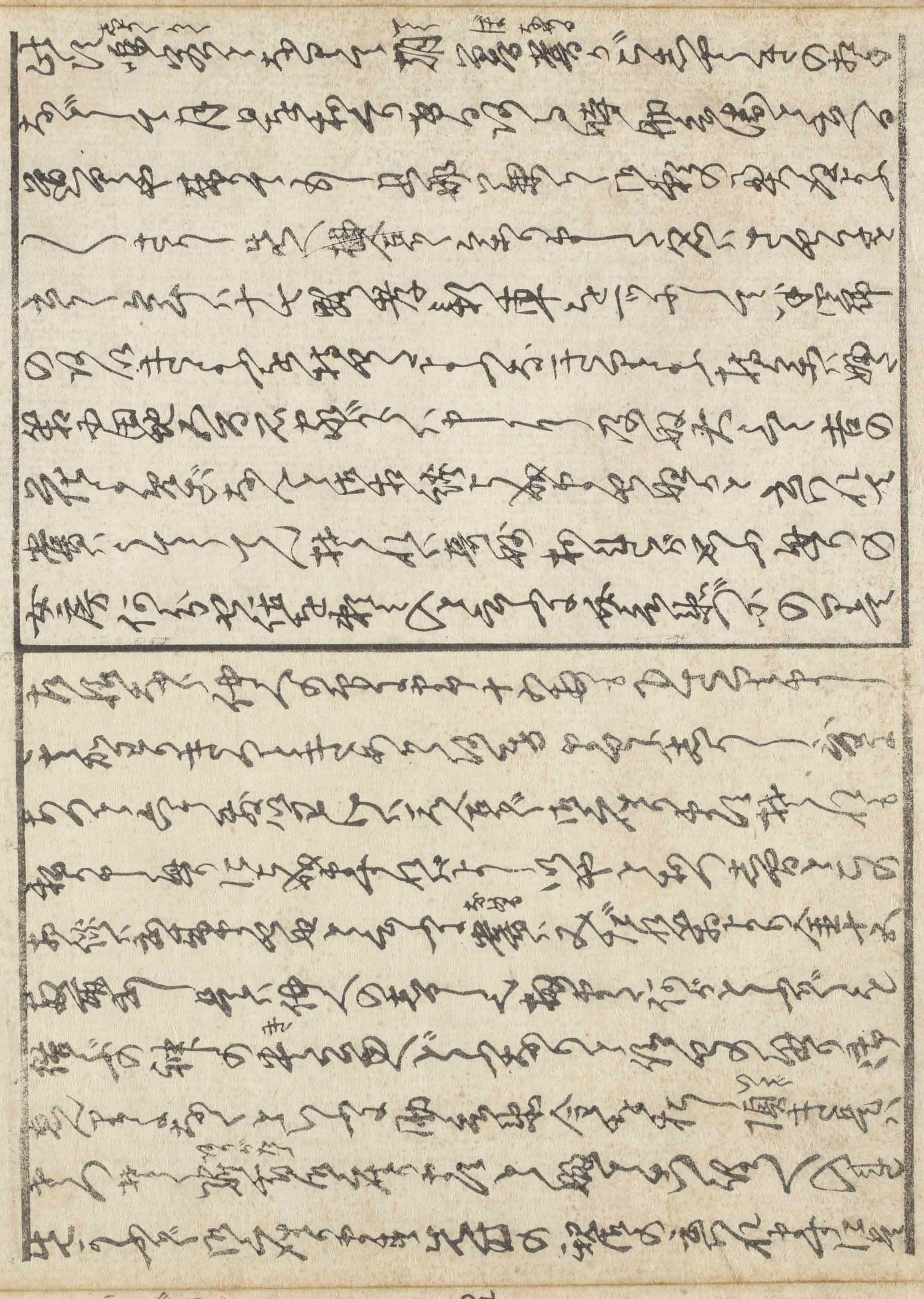
其二

其八
あらぎゆうをんさぐろ〜しのアノ
ふんだうしてえんだうしくゆうとこと
ぞうもかこうもびうもうあちこちで
うあきれさうふぐくぶんのしういそれよ
あの女めこんや、ゆまりーご三人ばかり
りふくおそるべしごあわさうあわざにて
ゆうと今こハそのうしゑんでもけんとくで
一まいうてそうんべエとそれんあうこあこう
ちぐ〜うけ初一のうこふうせぐしおうけ
ずゆまとくくれでものみとこのこあと
いふりのもうんぐそのぐ


男
女
男
女
男
女
男
女

其二

いづれの國にも有まれ澤國なりとて人者有まじ
田畑はもとより所々に荒れたる所多くして
げさに知れる男女ともに貧しきて
うわくまちまち事口たちまち貝殼の如
生徒も好まるる者少なければ
よりて好くまで澤山常ものの好まるるなり
きまきまきまで作
女房ちもたんそのなる
子男ありてうまれ好くまで有る
澤國者ゆゆしき出尾たる所にて

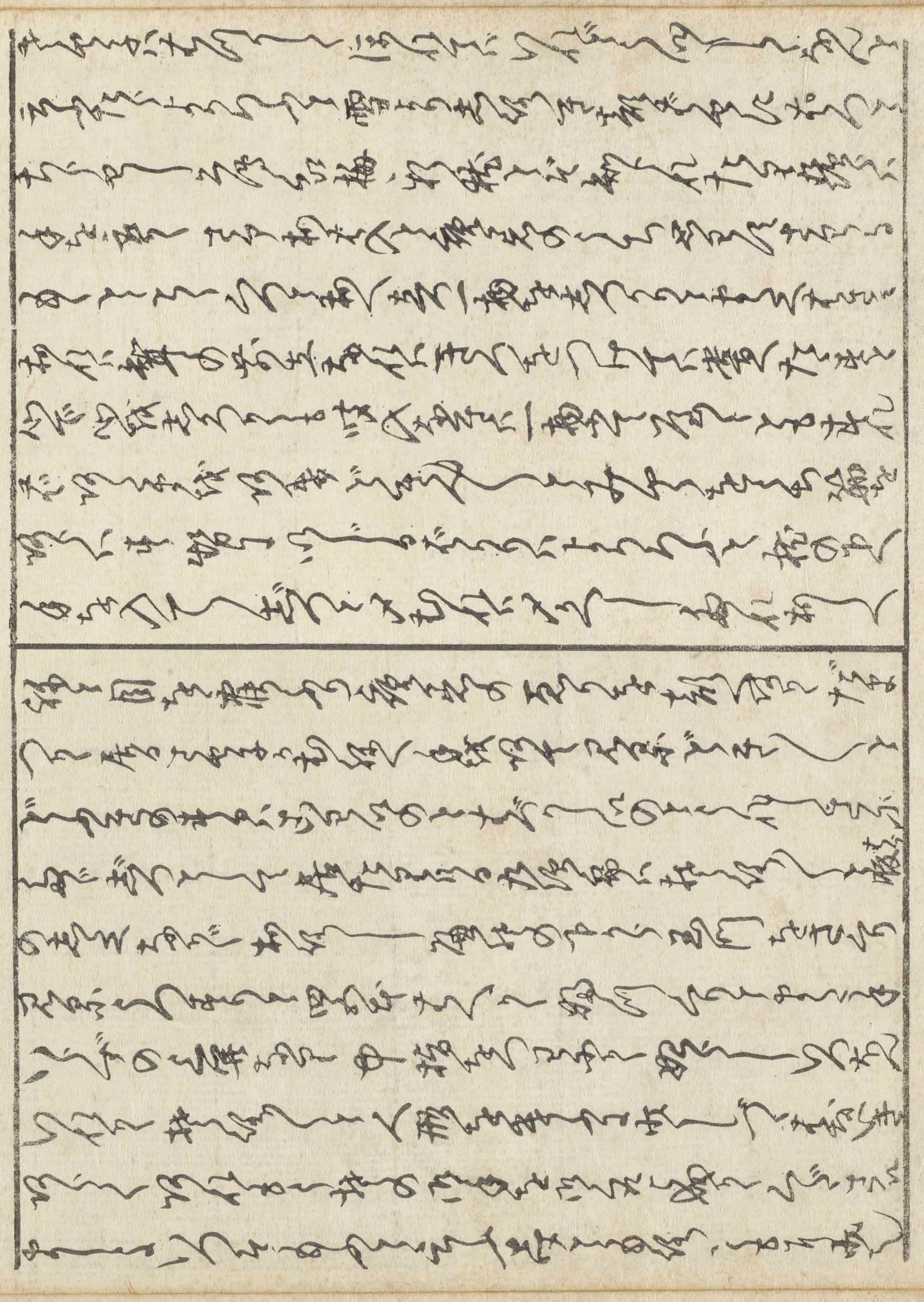


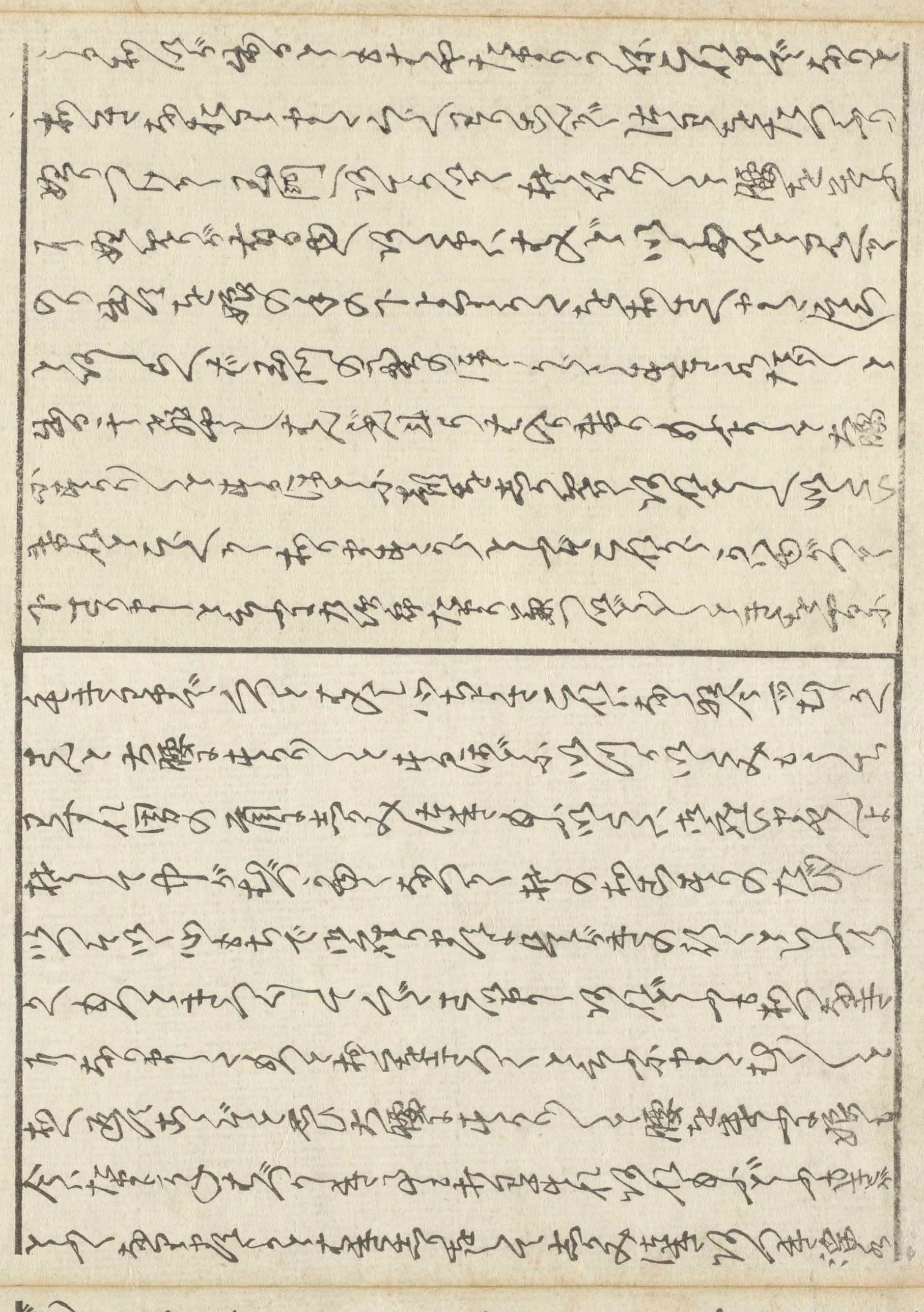
さ舞（むとの）殿たちやうこのもちく連（れん）ござんけりもりん
命ー姫ちゃうこちゃうに気にさくゆるのちゃうきぐうち
結言ちゃちゃうちゃうもいちゃうしゃうけんたちゃん
うう姫ちの寄小入るとちゃうちゃうかんぐんぐちゃうちゃ
行ちゃかしゃうちゃちゃ姫ちゃかちゃ門岳ちゃかりちゃ番ちゃん
谷尾ちゃ法寺ちゃちゃ人ちゃ法ちゃちゃちゃ沢
ちゃ姫ちゃ寄ちゃちゃかちゃかちゃのいち男ちゃ寄小入るちゃ
ひちゃぎちゃちゃちゃぐ一寸結ちゃちゃの寄ちゃちゃ
ちゃちゃ引ちゃ生ちゃちゃちゃる寄舞ちゃ
ちゃ法寺ちゃ時ちゃに寄ちゃちゃの碧結

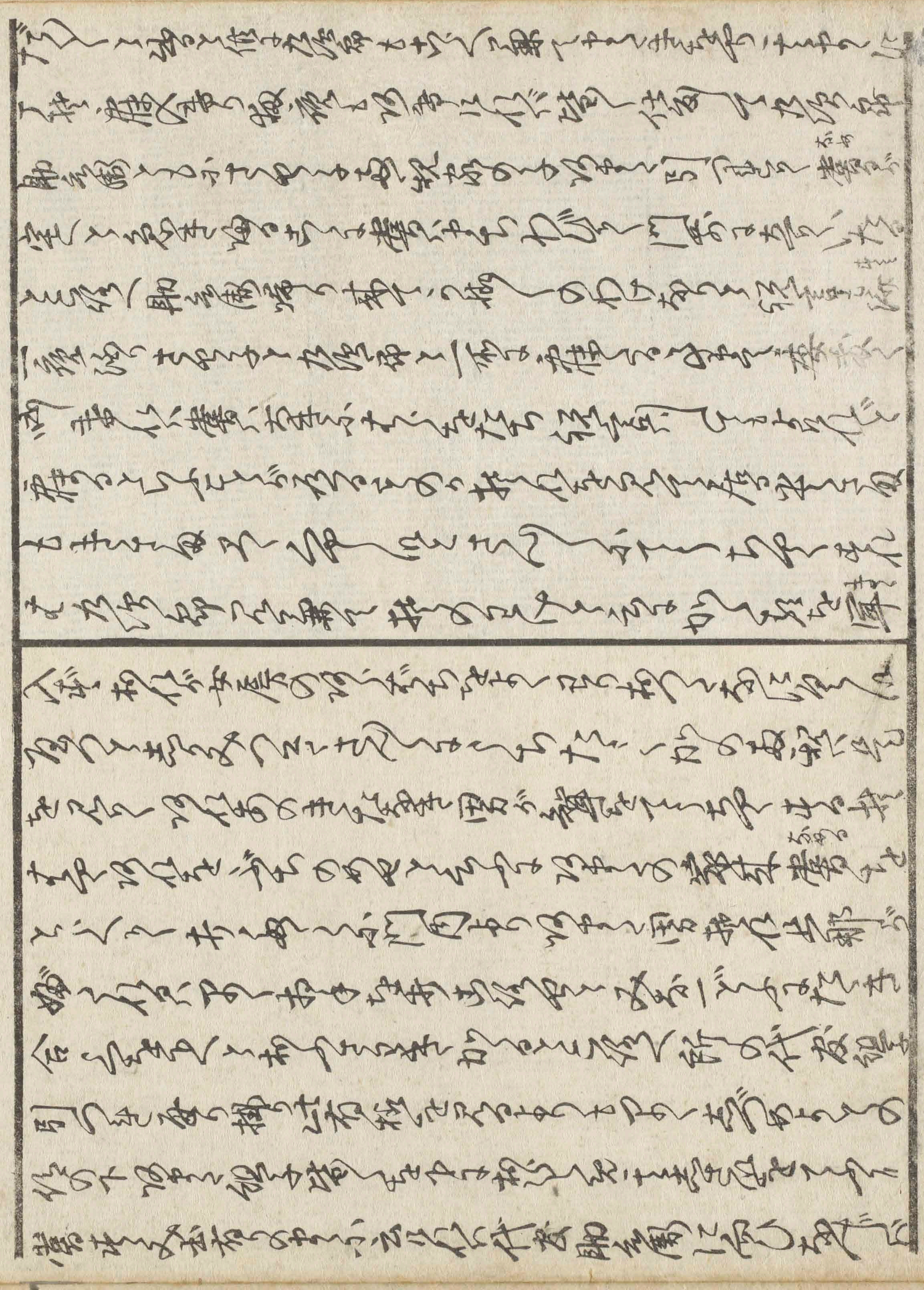
はちゃちゃ小ーちゃちゃ法仏廉ちゃの中で
だちゃ寄ちゃるちゃちゃ法ちゃく海ちゃ仕舞ちゃで
ちゃちゃちゃのちゃの行ちゃちゃ橋ちゃ法ちゃ中ちゃ
ちゃちゃ寄ちゃ小寄ちゃちゃけ中ーちゃ姫ちゃ
ちゃちゃちゃ中ちゃ寄ちゃちゃ姫ちゃ小ちゃ
ちゃちゃ小ちゃ新ちゃ居ちゃ寄小ちゃ男ちゃちゃちゃ八ちゃ
ちゃちゃ法ちゃ新ちゃ法ちゃ今ちゃちゃ寄
ちゃちゃ法ちゃ命ちゃちゃ姫ちゃたの寄ちゃ
ちゃちゃ法ちゃの城ー腰のちゃのちゃちゃ寄ちゃ
ちゃけちゃ法ちゃ中ちゃ義男のちゃちゃ

源氏の君も[illegible]年も　[illegible]娘に御座候へは
[illegible]たち[illegible]算用[illegible]今に[illegible]
[illegible]　御安心ハ
[illegible]の[illegible]右の[illegible]へ
[illegible]兼てハ[illegible]
[illegible]娘さん[illegible]子[illegible]同合[illegible]に[illegible]
なり[illegible]の者とも[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]　御安心ハ[illegible]の
今[illegible]娘の気[illegible]の[illegible]ハ
[illegible]二箇を五百石の田地[illegible]

[illegible]今夜ハ此方へ留
明日算用[illegible]娘も[illegible]と
[illegible]の[illegible]金子の[illegible]
の[illegible]右の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]一夜[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]十[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]女[illegible]
[illegible]の[illegible]







金銀をもらうたあくをしつるのつゝかり十五あの金城賞く
西の場より出帰りんと組子まさあるまうくたらふ山ま
〜あまりうくさもさ松子が向ひあるら御ま働まうくれて
たゝ家氏なあるゝ少く行言もあり〜たれ〜たゝ家命ゝ山場ま
やよまり〜たゝ家命八賞が門屋のくあれ〜妻をむりくる宮賞る
あり〜今さもさ拾系金助子あまりまゝ国地五百石ゆれで
ふゝを以りく一朝のうくんゝよ深圓書ふ伊くゝありゝ今殺ふ
幾尾たゝ家命ゝさもさのさんゝ以くんを反作あり〜ゝのゝるゝ
あゝさまさゝき墻〜ゝ侍をまゝ言ゝ言を言ゝ
賞を仲人ゝゝて又改ゝゝたゝ家同番反春をゝ家ゝ書